

平成31年度 看護学部1学年シラバス（前期・通年）

<前期>

英語ⅠA	…P1～5
英語ⅠB	…P6～11
フランス語	…P12～16
ドイツ語	…P17～22
スペイン語 前期	…P23～28
中国語	…P29～34
心理学	…P35～40
生活と科学	…P41～46
死生観の歴史	…P47～52
女性学	…P53～58
倫理学	…P59～64
自然科学（生物）	…P65～70
数学	…P71～73
文学	…P74～78
音楽	…P79～84
体育Ⅱ	…P85～89
行政と医療・福祉・保健	…P90～94
社会と法（日本国憲法を含む）	…P95～100
人体解剖生理学Ⅰ	…P101～105
生化学	…P106～110
看護学の基本Ⅰ	…P111～116
コミュニケーションに関する技術	…P117～122
看護技術とアセスメントⅠ	…P123～128

※自然科学は1つの科目で「生物」「物理」「化学」の3分野の講義を行います（3分野全て必修です）（「物理」と「化学」は後期に行います）。

※音楽は前期（8月）と後期（2月予定）にそれぞれ2日程度ずつ集中講義という形で行います。

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： 英語 I A (English IA)

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：クラスの形式には、会話練習、ペアワークとグループワーク、クラスへの短いプレゼンテーションが含まれます。社会問題に関するトピックディスカッションも、クラスの重要な部分を構成します。

学習目標：このクラスの主な目的は、学生が英語で一般的な能力を開発することです。これには、基本的な文法の見直し、会話パターンの練習、そしてクラスディスカッションが含まれます。英語コミュニケーションのための会話とリスニングスキルの開発に焦点を当てます。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務	—	修得の機会が

	規範遵守		を守り、人々のプライバシーを尊重できる。		ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のため		

			に、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： **Fifty-Fifty Book 1, Third Edition (PEARSON LONGMAN)**

参考書：

成績評価方法：出席＋交流活動(20点)、レポート(HW)X4回(20点)、期末試験(60点)

その他(メッセージ等)：このクラスを受講するには、出席と参加が必要です。成績には、

テスト、参加、出席が含まれます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	Class Introduction	クラス紹介と説明
第2回	Getting Started: Pages 2-4	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第3回	Chapter 1: Pages 5-8	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第4回	Chapter 2: Pages 11-14 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第5回	Chapter 3: Pages 16-19	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	Chapter 3/4: Pages 20-23	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	Chapter 4: Pages 24-26	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	Chapter 5: Pages 27-29	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	Chapter 5: Pages 30-31	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	Chapter 6: Pages 32-34 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	Chapter 6: Pages 35-36	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	Chapter 7: Pages 38-39	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	Chapter 7: Pages 40-41	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	復習	ペア&グループワーク・Q&A
第15回	期末試験	
第16回	Chapter 8: Pages 43-45 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	Chapter 8: Pages 46-47	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	Chapter 9: Pages 48-51	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	Chapter 9: Pages 52-54	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	Chapter 10: Pages 55-57	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	Chapter 10: Pages 58-60	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	Chapter 11: Pages 61-63	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	Chapter 11/12: Pages 64-66	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	Chapter 12: Pages 67-69 HW	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	Chapter 13: Pages 71-74	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	Chapter 13/14: Pages 75-78	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	Chapter 14: Pages 79-81	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	Chapter 14/15: Pages 82-84	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	Chapter 15: Pages 85-86	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	期末試験	

区分名：

科目名（英語名称含む）：英語 IB (English IB)

教員名：Peter Bryan McCann（ピーター・ブライアン・マカーン）

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：During their six years of English studies in junior and senior high schools most students did not get many chances to speak English or use English for practical purposes. This course will aim at giving students confidence in using English for communicating. Students will be introduced to a variety of real-life situations. The class will be conducted entirely in English

学習目標：The course will aim at teaching the students the basic daily conversational skills by being given the chance to practice language through communicative tasks, build their language strategies, and find their way to becoming more comfortable in the real world. Focus will be placed on listening comprehension and oral production. Many listening activities and speaking activities (role play and information gap activities) will be proposed during the course. Review and reinforcement of English language structures will help towards smoother and more effective communication. Students will be asked to participate actively in the class to make the most out of the course.

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位

	礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		認定に関係ない
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割につ		

			いて理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		

		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重		

		要性を説明できる。		定の要件である
--	--	-----------	--	---------

テキスト : Face2Face Pre-Intermediate Student's Book, Second Edition. Chris Redston & Gillie Cunningham. CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

参考書 :

成績評価方法 : A written test will be given at the end of the course that will account for 70% of each student's total score. Attendance will account for 20%, and for the final 10%, students will be assessed on their classroom participation throughout the course.

その他 (メッセージ等) : Please remember that active participation in class is essential in order get the most out of it. Also, if you have any questions, please feel free to contact me at any time.

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	1A: Life stories	Vocabulary: introduction questions, common responses.
第2回	1B: Super commuters	Vocabulary: questions about travel, work Grammar: subject questions.
第3回	1C: Time off	Vocabulary: free time activities Grammar: frequency adverbs.
第4回	2A: Beginnings	Vocabulary: past time phrases Grammar: past simple
第5回	2B: How we met	Vocabulary: relationships Grammar: past continuous
第6回	2C: Coincidences	Vocabulary: adjectives, connecting words
第7回	3A: Getting qualified	Vocabulary: employment Grammar: <i>have to/had to</i>
第8回	3B: Job-hunting	Vocabulary: looking for a job Grammar: present Continuous vs Simple
第9回	3C: What a job!	Vocabulary: world ending - noun endings.
第10回	4A: Lookalikes	Vocabulary: types of film, past participles. Grammar: present perfect - life experiences.
第11回	4B: My music	Vocabulary: types of music Grammar: present perfect - <i>Have you ever...?</i>
第12回	4C: TV or not TV?	Vocabulary: TV nouns and verbs, <i>-ed</i> and <i>-ing</i> adjectives.
第13回	5A: A crowded planet	Vocabulary: the environment Grammar: <i>will</i> for prediction, <i>might</i> .
第14回	5B: Never too old	Vocabulary: collocations

		Grammar: <i>be going to</i> - plans and ambitions.
第 15 回	COURSE REVIEW	
第 16 回	6A: Teenagers	Vocabulary: adjectives - character Grammar: comparatives, quantifiers.
第 17 回	6B: Roles people play	Vocabulary: relationships Grammar: superlatives
第 18 回	6C: Family Business	Vocabulary: adjectives and prefixes: <i>un, in, im, dis.</i>
第 19 回	7A: 50 places to go	Vocabulary: travel Grammar: Present continuous for future arrangements
第 20 回	7B: What are you taking?	Vocabulary: things we take on holiday Grammar: quantifiers, possessive pronouns
第 21 回	7C: Wish you were here	Vocabulary: phrases with <i>go</i> .
第 22 回	8A: Home sweet home	Vocabulary: describing your home Grammar: present perfect with <i>for</i> and <i>since</i> .
第 23 回	8B: Meet the parents	Vocabulary: going to dinner Grammar: <i>should, shouldn't, must, mustn't.</i>
第 24 回	8C: Cultural differences	Vocabulary: common verbs; verb patterns
第 25 回	9A: Problems, problems	Vocabulary: everyday problems Grammar: first conditional, future time clauses
第 26 回	9B: Sleepless nights	Vocabulary: adjectives - feelings Grammar: <i>too, too much, too many, (not) enough.</i>
第 27 回	9C: Noisy neighbours	Vocabulary: phrasal verbs
第 28 回	10A: The collectors	Vocabulary: verbs used in the passive Grammar: present/past simple passive
第 29 回	10B: Shopping trends	Vocabulary: words with <i>some-, any-, no-</i> and <i>every-</i> Grammar: <i>used to</i>
第 30 回	COURSE REVIEW	

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）： フランス語 （français débutant）

教員名：Régis de Lavison（レジス・ドラビゾン）

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期後期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：挨拶、ウォーミングアップ、国際交流に役立つ会話、単語、文法、などの演習。

学習目標：会話中心で、フランス語はどういう言葉で、フランスやカナダはどんな国なのかについて理解することがこの授業の第一目標です。

やさしい文法を使って多くの単語を学びます。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		

			照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： **Ensemble** (KOHGAKUSHA)

参考書：

成績評価方法：出席＋交流活動(20点)、小テスト&レポート X 16回(80点)

その他(メッセージ等)：宿題が毎週1時間以内が必要です。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	会話1(p.7) 国籍、職業	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第2回	同上＋数字、自己紹介	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第3回	会話2(p.15)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第4回	同上＋数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A

第5回	会話3 (p.27)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第6回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第7回	会話4 (p.36)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第8回	同上+数字	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第9回	同上+12個の質問ゲーム	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第10回	会話5 (p.44)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第11回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第12回	会話6 (p.49)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第13回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第14回	p.53, ex. 73, 74, 75, 76, 77	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第15回	会話7 (p.55)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第16回	同上+ex. 90	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第17回	会話8 (p.67)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第18回	会話9 (p.76)	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第19回	同上+第一グループの動詞の活用・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第20回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第21回	会話10 (p.92)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第22回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第23回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第24回	p.106の文法	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第25回	会話11 (p.104)・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第26回	会話12 (p.117)+第3グループ動詞と代名動詞	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第27回	同上・小テスト	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第28回	同上	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第29回	復習	ペア&グループワーク・発音練習・Q&A
第30回	小テスト	まとめ

区分名： 表現力を培う（コミュニケーション）

科目名（英語名称含む）：ドイツ語（German）

教員名：九頭見和夫

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：グローバル化している世界の中で、私たちがしなければならないことは、世界を知ることだと思います。この授業では、この視点に立って、明治時代以降日本と深い関わりを持つようになったドイツを中心に、スイス、オーストリア等ドイツ語圏の国々について学習します。

学習目標：1) 文章を正確に発音し、内容を理解することができる。

2) 短い文章を作り、相手に自分の考えを伝えることができる。

3) ドイツ語圏の生活や歴史等に興味を持ち、学習することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者とし		

			ての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：「ドイツ語インフォメーション neu²」秋田静男著、朝日出版社

参考書：授業の中で紹介します。

成績評価方法：全授業回数の3/4以上の出席を評価の条件とします。

その上で試験の成績、質問への回答など授業への積極的な参加、小テスト、レポート等を総合して最終成績を決定します。

詳細については1回目の授業の際に説明します。

その他（メッセージ等）：グローバル化している世界の中では、福島とか、日本とか限定された範囲ではなく、広く世界に目を向けることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画
第2回	ドイツの概説（1）	ドイツ連邦共和国について
第3回	ドイツの概説（2）	ヨーロッパの言語とドイツ語
第4回 ～ 第9回		アルファベットと発音の規則 動詞の現在人称変化（1） ドイツ語の文型。名詞の性、数、格。 定冠詞と不定冠詞。 ドイツの歴史と宗教。ヨーロッパの気候。 ドイツの食文化
		授業のまとめ
第10回	中間試験	中間試験について 授業の理解度をみる

第 11 回 ～ 第 14 回		名詞の複数形。 動詞の現在人称変化（2）。 命令形。グリム童話。 ドイツ人の余暇・休暇 ドイツの教育制度
第 15 回	前期のまとめ	前期試験について
第 16 回	前期の復習	前期に学習したことの理解度の確認
第 17 回 ～ 第 21 回		定冠詞類と不定冠詞類。人称代名詞。 数詞。前置詞。従属の接続詞。 簡単な日常会話 ドイツのビール。 ドイツの交通。 ドイツのサッカー
第 22 回	授業のまとめ	前期試験について
第 23 回	中間試験	これまでの授業の理解度をみる
第 24 回 ～ 第 29 回		話法の助動詞。 未来形の文。 動詞の三基本形。 現在完了形の文。 医学用のドイツ語。
第 30 回	後期のまとめ	後期末試験について

区分 表現力を培う

科目名 スペイン語 前期／spanish

教員名 高田 裕憲

開設学期 2019 年度前期～後期

必修／選択 選択

授業形態 演習 ， 単位数 2 単位， 時間数 30 時間

授業の概要 「スペイン語はじめの一步」

一般目標

スペイン語は世界で推計 3 億 3900 万人が使用し世界第 2 位の話者数を持つ言語です。スペインはもとより、ラテンアメリカ地域の大半の地域で公用語になっていますし、アメリカ合衆国でもカリフォルニア・フロリダ州を中心にスペイン語を運用できる人々が社会的影響力を持っています。発音は慣れればそれほど難しくありません。社会・文化・スポーツと
きっかけはどこからでも構いません。スペイン語、スペイン語文化圏に関心を持ってもらえれば嬉しいです。

行動目標

手助けがあればスペイン語を日常生活レベルで運用できるレベルで体得しましょう。欧州で広く導入されつつあるヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) A2 レベル (初級・スペイン教育文化スポーツ省が認定する国際スペイン語検定レベル A2 クラス) を目指しましょう。テキストのタイトルには「文法中心」とありますが実際の授業では使えるようにする練習を重視します。スペイン語を理解するお手伝いをさせてください。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を積極的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基礎となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

授業内容（学習項目）

第1回	第1課(1)	アルファベット、発音、音節、挨拶「こんにちは！」
第2回	第2課(1)	ほら、ここにカフェテリアがあります(1)
第3回	第2課(2)	ほら、ここにカフェテリアがあります(2)
第4回	第3課(1)	スペイン語を話しますか？(1)
第5回	第3課(2)	スペイン語を話しますか？(2)
第6回	第4課(1)	私は日本人です(1)
第7回	第4課(2)	私は日本人です(2)
第8回	第5課(1)	電車で大学に行きます(1)
第9回	第5課(2)	電車で大学に行きます(2)
第10回	第6課(1)	パエリアを食べたい(1)
第11回	第6課(2)	パエリアを食べたい(2)
第12回	第7課(1)	ラテン音楽が大好きです(1)
第13回	第7課(2)	ラテン音楽が大好きです(2)
第14回	文法補足	もっと学びましょう
第15回	第8課(1)	先月スペインへ旅行しました(1)
第16回	第8課(2)	先月スペインへ旅行しました(2)
第17回	第9課(1)	どこにも行けなかった(1)
第18回	第9課(2)	どこにも行けなかった(2)
第19回	第10課(1)	ピアノを弾きながら休暇を過ごしていました(1)
第20回	第10課(2)	ピアノを弾きながら休暇を過ごしていました(2)

第21回	第11課(1)	朝6時に起きます(1)
第22回	第11課(2)	朝6時に起きます(2)
第23回	第12課(1)	スペインに行ったことはありますか？(1)
第24回	第12課(2)	スペインに行ったことはありますか？(2)
第25回	第13課(1)	セゴビアに遠足に行くでしょう(1)
第26回	第13課(2)	セゴビアに遠足に行くでしょう(2)
第27回	第14課(1)	ゲエル公園を訪れるよう勧めます(1)
第28回	第14課(2)	ゲエル公園を訪れるよう勧めます(2)
第29回	第15課(1)	ちょっとすみませんが(1)
第30回	第15課(2)	ちょっとすみませんが(2)

授業の進行状況によっては内容を変更する場合があります

テキスト

栗林ゆき絵他『新・エストレリタースペイン語入門コース』朝日出版社、2019年

上記テキストの音声サイト <http://text.asahipress.com/free/spanish/estrellita/index.html>

参考書

鼓直他編『プログレッシブスペイン語辞典カレッジエディション』小学館、2016年

岡本信照『スペイン語のしくみ<<新版>>』白水社、2014年

成績評価方法

単位の評価対象となるのは授業回数の2/3以上を出席している者。それを下回った場合は自動的に不合格となります。また、語学は出席率と成績がほぼ比例しますので、欠席（忌引き、インフルエンザなどによる出席停止を除く）1回につき2点を減点します。

期末試験は前期に1回、後期に1回実施します。

詳細に関しては1回目の授業で説明します。

教員から学生へのメッセージ

スペイン語圏が持つ奥深い社会へ文化に関心を持ってもらえれば幸いです。また、一般教養科目（この語学を含めて）はみなさんが今まで持っていた「知のものさし」を組み立てなおす良い機会です。語学は「テクネー」（ギリシア語で「体が覚える学問」）の領域に属しますので一夜漬けでは単位は取れても役には立たないでしょう。単位をとることが最終目標ではありませんので、毎日少しでも（授業外で一日30分。目標としては週4時間）勉強することをお勧めします。皆さんは将来、他の人の命を守る職業に就くのでしょうか、他分野の業種の方と仕事をする事多いでしょう。多くのことに早く気づいてくれることを期待します。

区分名： 表現力を培う

科目名：中国語 (Chinese)

教員名：池澤 實芳

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期～後期 ， 必修／選択：選択

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：この授業は、基礎的な中国語の訓練を行なうことと、中国の社会や文化への興味・関心を持つ態度を身につけることにより、中国語のコミュニケーション能力の修得を目的とする。

学習目標：中国語(普通話)の発音、基本的な文法事項、基本的な語彙・構文を身につけ、平易な日常会話の訓練を通して、中国語の基礎を修得するとともに、あわせて視聴覚教材などを通して、中国の社会や文化への興味・関心をもつ態度を培う。

具体的な学習目標として、次の5点を修得することが望ましい。

- (1) ピンインを付した基礎的な語彙や簡単な文を正確に発音できる。
- (2) 基礎的な語彙や短い文を聞いて理解し、簡体字とピンインで書き取ることができる。
- (3) 平易で簡単な日常会話ができる。
- (4) 目的にあわせて中国語の簡単な文を作ることができる。
- (5) 中国の文化や社会について、断片的ながら初歩的・基礎的な知識を修得するとともに、中国への知的関心を持つ態度を身につけることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない

		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	"
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：陳淑梅、劉光赤著『わくわくスタディ 実学実用 初級中国語 ライト版』
(2019年1月、朝日出版社)

参考書：適宜教室で紹介する。

成績評価方法：定期試験(40%~50%) + 小テスト・発音試験・視聴覚教材レポート・プレゼンテーションなど(60%~50%)により、総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：実際の授業の進度は、さまざまな要因により、シラバス通りに実施できないことがある。以下のシラバスの進度は、一応の目安と考えてほしい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	4/10：導入、第1課	発音(1)声調
第2回	4/10：第1課	発音(2)単母音、ドリル
第3回	4/17：第2課	発音(3)複母音
第4回	4/24：第2課	発音(4)ドリル
第5回	5/8：第3課	発音(5)子音
第6回	5/15：第3課	発音(6)ドリル
第7回	5/22：第4課	発音(7)鼻母音、r化
第8回	5/29：第4課	発音(8)ドリル・数字1~10・漢詩(春暁)
第9回	6/5：第5課	是・呢
第10回	6/12：第5課	小テスト(1)、人称代名詞、本文
第11回	6/19：第5課	小テスト(2)、ドリル、キープフレーズ

第12回	6/26：第6課	小テスト(3)、名前の言い方、名前の尋ね方
第13回	7/3：第6課	小テスト(4)、的、本文、ドリル
第14回	7/10：発音試験、視聴覚教材(1)	発音試験実施、視聴覚教材鑑賞(1)
第15回	7/17：視聴覚教材(2)	視聴覚教材鑑賞(2)
第16回	10/2：第7課	動詞述語文、疑問文
第17回	10/9：第7課	小テスト(1)、本文、ドリル
第18回	10/16：第8課	小テスト(2)、助動詞「想」、連動文
第19回	10/23：第8課	小テスト(3)、動詞「喜欢」、本文、ドリル
第20回	10/30：第8、9課	小テスト(4)、キーフレーズ、量詞
第21回	11/6：第9課	小テスト(5)、動詞「有」、数字
第22回	11/13：第9、10課	発音試験、本文、ドリル、キーフレーズ、動詞「请」
第23回	11/20：第10課	助詞「过」、形容詞述語文
第24回	11/27：視聴覚教材(1)	視聴覚教材鑑賞(1)
第25回	12/4：視聴覚教材(2)	視聴覚教材鑑賞(2)
第26回	12/11：第10課	本文、ドリル、キーフレーズ
第27回	1/8：第11課	動詞「在」、方位詞、前置詞
第28回	1/15：第11課	本文、ドリル、キーフレーズ
第29回	1/22：第12課	年月日、曜日、変化の助詞「了」
第30回	1/29：第12課	年齢の尋ね方、本文、ドリル

区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：心理学（Psychology）

教員名：三澤文紀、竹林由武（医学部健康リスクコミュニケーション学講座）、小林智之
（医学部健康リスクコミュニケーション学講座）

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：

心理学の幅広い領域を概観し、「こころ」を理解する方法やそれを用いた方法を学ぶ。

学習目標：

- 1) 心理学の様々な考え方や知見があることを理解し、それぞれの特徴を理解している。
- 2) 心理学の主要な用語の意味について、授業の内容をもとに正しく答えることができる。
- 3) 人の行動や心理を心理学的視点から考えることに関心を持っている。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない

		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		

		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定のテキストは使用しない。講義内容に則したプリントを配付する。

参考書：長田久雄（編） 看護学生のための心理学—第2版— 医学書院 2,400円＋税
その他、授業内で適宜紹介する。

成績評価方法：前期中の小テストやレポート、期末試験、出欠状況、授業態度等によって総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：心理学の多様な考え方を学びましょう。受講生には積極的な学びの姿勢を求めます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	心理学とは／記憶	心理学の概説／記憶のモデル
第2回	性格・知能	性格の類型論・特性論、知能テスト
第3回	動機づけ	内発的動機づけ、自己効力感、欲求の五段階説
第4回	発達1	乳幼児期・児童期
第5回	発達2	青年期
第6回	発達3	成人期・老年期
第7回	社会心理	対人認知、コミュニケーション、援助

第8回	ストレス	ストレスのモデル、コーピング、バーンアウト
第9回	精神分析	無意識、心の構造、防衛機制
第10回	交流分析1	自我状態、交流パターンの分析
第11回	交流分析2/クライアント中心療法1	交流の変更/自己一致
第12回	クライアント中心療法2	共感的理解、傾聴
第13回	家族療法	全体性、円環的認識論、解決志向アプローチ
第14回	認知行動療法1:基礎と行動的技法	エクスポージャー法、問題解決技法、行動活性化
第15回	認知行動療法2:認知的技法	認知再体制化、行動実験、マインドフルネス

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：生活と科学（Human Life and Environmental Sciences）

教員名：立柳聡

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：日本人の生活のあり方を基礎付けたものとは何か、それに根ざして日々の生活の中で育まれてきた日本人の様々な生活知に注目し、その背景やそれらが生み出した生活の特色とみられることを探究していく。

学習目標：

一般目標；1）日本人の生活の特色を生み出してきたものとは何か、わかるようになる。
2）文化や社会のあり方と生活、健康、病気、障がいとの関わりがわかるようになる。

行動目標；1）農業、特に、穀物の栽培が、一般にどんな特色を有する文化や社会を生み出すか、理解できる。

2）日本人の死生観、生命観、人生観、病気観、障がい観が、どのような背景の下に形成され、特色を有するか、理解できる。

3）生活の諸側面、特に、食生活のあり方と健康との相関を考察できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。

		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		

		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：必要に応じ、順次、プリントを配布します。

参考書：講義を踏まえ、適時、紹介していきます。

成績評価方法：

- 1) 出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。
- 2) 欠席された場合は、その日の講義の要点をまとめた自己学習報告書を所定の日までに提出していただきます。万一未提出となった場合は、減点とします。なお、内容に問題がある場合は、必要に応じ、個別の呼び出しをさせていただきます、問題点の指導に当たります。
- 3) 科目担当者の判断として、レポートの再提出の機会はありません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。
- 4) 万一、不合格となった場合は、11月に特設講座を開設し、再履修していただきます。ゼミナールかチュートリアルで鍛えます。その上でレポートを提出していただき、12月に成果を評価し、合否判定を行います。それでも不合格となった場合は、1月より改めて特設講座を開設して、最履修していただきます。その上でレポートを提出していただき、2月に成果を評価し、合否判定を行います。なお、これをもってラストチャンスといたします。
- 5) その他、諸々の詳細は、開講時に説明します。

その他（メッセージ等）：

- 1) 人任せ＝主体性を欠いた発言・判断・行動、並びに、気楽、安易、暢気な態度には厳しく措置します。常に適度な緊張感を携えて授業に出席したり、レポート等に取り組んでください。
- 2) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。私語、授業中の中抜けなどの迷惑行為に対しては、厳しく措置します。
- 3) 部活の都合は一切考慮しません。
- 4) この科目は必修科目です。不合格になると留年（2年生に進級できないこと）になりますので、十二分に心して合格、単位取得を目指してください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション、 並びに、文化と生活知	大学での学び方を指導します。 文化、生活知とはどのようなものか講じます。
第2回	日本人の生活の基盤を 築いた生業	生活知の凝縮とも言うべき代表的な年中行事を例に、日本人の生活の仕方に潜むこだわりやその背景をあぶりだす作業の触りをご紹介し、日本人の生活知の多くが農業に由来していることを明らかにすると共に、本講座において基調となる思考について講じます。
第3回	農耕文化の一般的特色	農業の始まり、穀類の栽培がもたらしたもの： 定住・食料保存・時間的規則性など、世界の農耕文化に共通性の高い特色を講じます。
第4回	農耕文化の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。
第5回	農耕社会の一般的特色	互助協同・分業・階層化： 農業を生業とする人々の社会にみられる共通性の高い特色とはどのようなものか講じます。
第6回	農耕社会の一般的特色・その2	前回の続きを講じます。
第7回	定住生活と健康・衛生	定住という生活の仕方は、健康や衛生の保持にも重大な影響をもたらしました。現代人の健康問題も射程に置きながら、特論的にその細部を講じます。
第8回	日本人の自然観1	時・空間の捉え方： 日本人は、日々の生活の時間や場面をどのように規則的に捉えてきたかを講じます。
第9回	日本人の自然観1－2	前回の続きを講じます。
第10回	日本人の自然観2	人生観・死生観・子ども観： 日々の生活の時間や場面の捉え方が、生命の捉え方にも大きな影響を与えているとみられることを講じます。
第11回	日本人の自然観2－2	前回の続きを講じます。
第12回	日本人の自然観3	植物観：

		日本人は生活知としてどのような生命観を築いてきたのか、それを考える第一歩として、身近な植物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第13回	日本人の自然観4	動物観： 日本人は身近な動物の生命をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを講じます。
第14回	日本人の自然観4-2、並びに、オリエンテーション	前回の続きを講じます。 レポートの課題を発表すると共に、グループワークによるレポート作成について指導します。
第15回	日本人の人間観	障害者観・病気観： 日本人は、生活知として人間や病気、健康をどのように捉えてきたか、特徴とみられることを、障がいを負った人たちに対する捉え方を例に講じます。

区分名：人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：死生観の歴史（History of views on life and death）

教員名：末永 恵子

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：選択

授業形態：講義，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：少子超高齢社会を迎えた日本では、いままでになかった勢いで、たとえば女性観、男性観、家族観、職業観、宗教観などが変化しています。何か確固とした理想的な生き方といったものは見つけにくくなってきました。そのようななかで、人間の生や死についての関心はとて高まってきています。

しかも、私たちは巨大な災害によって多くの人命が失われる事態に遭遇しました。「生きる意味とは何か、死とは何か」という問題を探求せざるをえなくなっています。死生観とは、人間の生と死をどのように把握し、どのようにこの問題と向き合うかといった考察です。古今東西の宗教や思想家がこの問題についてさまざまな考察を行いました。

この授業では、そのような死生観をふりかえり、さまざまな角度からこのテーマについて考えます。生と死に向き合う看護領域の営みにも参考になる授業を目指しています。

学習目標：

【一般目標】古今東西の宗教や思想の死生観を把握するとともに、その死生観の社会的歴史的背景についても理解し、さらに現代の生と死の問題とも関連させて考察する態度を身につける。

【行動目標】

- 1 各宗教および思想家の死生観を文献資料や映像から把握することができる。
- 2 伝統的死生観と現代人の死についての意識とを比較し、論じることができる。
- 3 死生観の考察を通して、自己の死生観を育むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		習得の機会はあるが単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	習得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会はあるが単

	コミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		位認定に関係ない
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：授業時に配布する。

参考書：以下を参考書とする。

- 1, 島藺進ほか『死生学』1～5 東京大学出版会、2008年
- 2, 立川昭二『日本人の死生観』筑摩書房、1998年
- 3, 波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞社、2004年
- 4, 佐藤弘夫『死者の花嫁 葬送と追想の列島史』幻戯書房、2015年
- 5, 金菱清（ゼミナール）編『呼び覚まされる霊性の震災学—— 3・11 生と死のはざま』新曜社、2016年

成績評価方法：授業への参画態度、ミニレポート、課題レポートの内容を総合し、成績を

決定する。

その他（メッセージ等）： 死生観は生きていく間に他者（死者と生者）との関係をどのように構築していくかという課題を問いかけます。自分はどのように他者とつながるのか、大きな問いをもちつつ、考察を重ねてまいりましょう。授業が積極的な議論の場となることを願っています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	導入	ガイダンス：討論方法・レポート作成方法など
第2回	現代の死を考える	喪と追悼、死者と生者、葬送の意義
第3回	看取りを考える	告知、悲嘆、死者とのつながり
第4回	仏教の死生観1	チベット仏教、輪廻転生
第5回	仏教の死生観2	原始仏教と現代仏教
第6回	仏教の死生観3	日本的仏教
第7回	道教の死生観	不老不死への道
第8回	儒教の死生観	沈黙の宗教、祖先祭祀
第9回	神道の死生観1	記紀神話 国学
第10回	神道の死生観2	国家と宗教 靖国神社
第11回	キリスト教の死生観1	旧約聖書
第12回	キリスト教の死生観2	キリスト教の成立と死生観
第13回	イスラム教の死生観1	イスラム教の基礎知識
第14回	イスラム教の死生観2	クルアーンの死生観
第15回	総括	総合討論

区分名： 人間の理解を深める

科目名（英語名称含む）：女性学（Women's Studies）

教員名： 高橋 準

開講年次：1年次，学期：2019年度前期，必修／選択：選択（助産師履修者は必修）

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：

わたしたちは、自分が「女性であること」「男性であること」を、この二分法も含めて、固定的で本質的なものとして、疑いをさしはさまないことが多い。しかし実際は、ひとが女性もしくは男性になる／であるためには、発生的にはもちろん、制度的にも社会的にも、さまざまなプロセスを経る必要がある。

本講義では、〈性〉を構成する要素について知るとともに、わたしたちが性別を持つ存在であることで受けるさまざまな制約と、豊かな可能性について検討する。その際、知識を身につけるとともに、問題を発見し、考察する力を養うことを目指す。

学習目標：

- 1) 〈性〉を構成する諸相について知る。
- 2) 社会・文化の中での〈性〉の諸相と、関連する社会問題について理解する。
- 3) 日常的に触れる機会があるメディアの表象等を批判的に解釈できる。
- 4) 将来の職業経験の中で、〈性〉と、その多様性をどのように位置づけるかを考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない。

	習慣・服装・品位/礼儀	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定
		人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

		看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		の要件である。
		望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	感性を高める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		倫理性を高める科目		
		論理的思考能力を高める科目		
		表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		人間の理解を深める科目		
		人間の身体機能と病態を理解する科目		
		看護の基本となる科目		

			看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者		看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
			看護の実践		
			看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践		人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
			人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
			健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
			安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
			看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
			看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
			地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る		地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
			人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ		福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
			放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
			放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：高橋準、『ジェンダー学への道案内（四訂版）』、北樹出版、2014年。

参考書：講義中に指示する。

成績評価方法：各日のコメントカードと、最終コマに実施する試験を総合して判断する。

その他（メッセージ等）：集中講義形式で、短期間で広い範囲の内容に触れるので、あらかじめテキストの第1章、第4章、第5章、第6章に目を通しておいください。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イントロダクション	公共芸術とジェンダー
第2回	ジェンダーの概念	ジェンダー／セクシュアリティ
第3回	ジェンダーと性差別	セクシズム／ジェンダリズム

第4回	メディアとジェンダー	メディアと表現
第5回	家族とジェンダー	近代家族
第6回	〈性〉の多様性(1)	セクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ
第7回	〈性〉の多様性(2)	セクシュアル・マイノリティ、クィア
第8回	〈性〉の多様性(3)	都市とセクシュアリティ
第9回	〈性〉の多様性(4)	性／生／生殖
第10回	〈性〉の多様性(5)	クィア家族
第11回	医療と〈性〉	医療とセクシュアル・マイノリティ
第12回	災害と〈性〉(1)	災害脆弱性としての〈性〉
第13回	災害と〈性〉(2)	東日本大震災とジェンダーの問題
第14回	災害と〈性〉(3)	災害とセクシュアル・マイノリティ
第15回	まとめ	

区分名：倫理性を高める

科目名（英語名称含む）：倫理学（Ethics）

教員名：福田俊章

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期，必修／選択：選択必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：

1. 古来、「いかに生きるべきか」という道德の問いは人間の最も基本的な関心事のひとつであった。倫理学はこの問いを哲学的な議論の土俵で取り扱おうとする。道德の問題に出来合いの答はないにしても、しかし人間なら誰もがこの問いについて考えることが出来る。この授業では、各人がみずから主体的に道德上の問題を考えるにあたって、その公共的な基盤となるべきものを提供したいと考えている。人はお互いに議論の土俵を共有し合いつつ、それぞれの思索を深めて行くべきものだからである。

2. 「人間は政治的な動物（political animal）である」（アリストテレス）という有名な言葉は、そもそもは「人間はポリス（polis 都市国家）に生きる動物である」ということを意味していた。人間は共同体を作り、社会に生きる動物なのである。倫理学（ethics）という学問もまた、本来はそうした社会に生きる人間の住み習わし方（ethos）についての学であった。この授業では、人間と社会との関わりの中で生じる様々な倫理的諸問題を取り扱いながら、西欧の倫理学が道德的規範の本質についてどのように考えて来たのかを共に考えたい。

学習目標：

《一般目標》

道德的問題について、人はしばしば自分なりの直観的解答をもっている。だが、その答を当然視しているだけでは、未だ道德について考えていることにはならない。「どうして自分はそう思うのか」という理由（根拠）をはっきりさせようとする中で、「自分の頭で考える」ことが始まる。倫理学とは、こうした日常的な道德的観念に対する批判的反省である。「当たり前だと思ふことを考え直す」という問題意識に触れることによって、倫理的な思索態度を身につけたい。

《行動目標》

1 倫理理論の二類型——規範と価値

(1) 善意からする嘘をめぐるカントとコンスタンの見解の根本的相違がどこにあるのか考えられる。

(2) 倫理理論を類型化すれば、例えばどんな分類があるのか言える。

2 義務論的な倫理学——カント倫理学

- (1) カントが何をもちて道徳的行為の特質とみなしたか言える。
 - (2) 規則の普遍化可能性が行為の道徳的評価基準としてどこまで有効か考えられる。
 - (3) カント倫理学において幸福の問題が最終的にいかなる形で処理されているか言える。
- 3 帰結（結果）主義的な倫理学——功利主義
- (1) 功利主義の基本的主張が何であるか言える。
 - (2) ベンサムやミルがいかなる問題意識から功利主義を立てたのか言える。
 - (3) 行為／規則功利主義の区別が説明できる。
 - (4) 功利主義にも様々な問題点が潜んでいることが判る。
- 4 社会倫理の基底——正義と利益
- (1) 正義の中核的観念が何であるか言える。
 - (2) 社会契約の核心的主張が何であるか言える。
 - (3) 自然法の観念が何であるか言える。
 - (4) 人間が社会を組織して生きることの意味について、自分なりに考えられる。
- 5 環境倫理の基礎——環境の保全と保存
- (1) 環境倫理の得失が何であるか言える。
 - (2) 「環境倫理3つの柱」とは何のことか言える。
 - (3) 地球温暖化の問題がどういう問題か言える。
 - (4) 保全主義、保存主義、そして「里山の環境倫理」とはどういう考えかが言える。
- 6 総じて、こうしたことをいくら知っていても倫理的に高潔な人間になれるわけではないことが判る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特定の教科書は用いない。

参考書：

澤和久・馬淵浩二編『倫理学の地図』ナカニシヤ出版、2010年
 バッジーニ、フォスル／長滝、廣瀬（訳）『倫理学の道具箱』共立出版、2012年

成績評価方法：授業への参画態度に加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末に課すこととしたい。

その他（メッセージ等）：以前は選択科目として医学部との共通授業だった倫理学も、今は看護学部生だけを対象とした必修科目となりました。一時は回数も半減したのですが、今年度から60分15回の時間数が確保されました。これまで以上に理解しやすい授業を心がけたいと思います。学生の皆さんも欠席せずに出席されることを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	導入	日常道徳と倫理学
第2回	倫理理論の二類型	倫理理論の二類型、善意からする嘘、規範と価値
第3回	カントの倫理学(1)	幸福が道徳の原理にならないとされる理由
第4回	カントの倫理学(2)	規則の普遍化可能性、義務の特定
第5回	カントの倫理学(3)	人間の自由と価値、最高善と正義の実現

第6回	功利主義の倫理学(1)	功利主義の概略、利己主義と功利主義
第7回	功利主義の倫理学(2)	功利主義の思想家たち (ベンサム、J. S. ミル)
第8回	功利主義の倫理学(3)	行為功利主義と規則功利主義、功利主義と価値
第9回	功利主義の倫理学(4)	功利主義の問題点(原理の非単一性、正義の保証不可能性)
第10回	功利主義の倫理学(5)	功利主義の問題点 (幸福の計算不可能性、人間的側面の軽視、道徳的動機の説明困難)、全体のまとめ
第11回	社会倫理の基底(1)	等しさの実現としての正義
第12回	社会倫理の基底(2)	正義と利益、自然法
第13回	社会倫理の基底(3)	社会契約と国家、ホッブズとロック
第14回	環境倫理(1)	環境倫理とは何か (環境倫理学 3 つの柱、保全と保存)
第15回	環境倫理(2)	環境倫理の実際(地球温暖化と倫理、里山の倫理)

区分名：論理的思考力を培う

科目名（英語名称含む）：自然科学（生物学）（Natural Sciences（Biology））

教員名：松岡有樹，五十嵐城太郎，西山学即

開講年次：1年次，学 期：2018年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義，単位数：2単位 ，時間数：23時間

概要：

多様な生命現象の根底に存在する共通原理について、物質・エネルギー・情報の3つの観点から学習することによって、生命科学の基礎を統一的に理解する。

学習目標：

(1) 生命の多様性と共通性について概説できる。(2) 原核生物と真核生物の特徴を説明できる。(3) 種々の細胞内小器官の構造と機能について説明できる。(4) 細胞の観察法を理解し、その全体像を図示できる。(5) 体細胞分裂および減数分裂の過程を図示し、説明できる。(6) 生殖の方法と遺伝的多様性について説明できる。(7) 染色体の構造と機能を概説し、その挙動について説明できる。(8) DNA の複製，転写の仕組みとタンパク質の合成が説明できる。(9) 糖、タンパク質、脂質、核酸の性質・代謝について概説できる。(10) ヘモグロビンの酸素解離曲線について概説できる。(11) 酵素の構造と機能について説明できる。(12) 酸化的リン酸化によるATPの産生及びATPの加水分解に伴うエネルギーの放出を説明できる。(13) 恒常性の維持について説明できる。(14) 生体防御についてその機構を理解し、説明できる。(15) 生命の多様性について進化の観点から説明ができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	習得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	習得の機会がない

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	習得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	習得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	習得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	習得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	習得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	-	習得の機会がない

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	習得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	習得の機会がない

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない

参考書：Urry, L. A. ほか (2018) 『キャンベル生物学 原書 11 版』丸善出版

Albetts, B. ほか (2016) 『Essential 細胞生物学 原書第 4 版』南江堂

木下勉ほか (2015) 『ZERO からの生命科学 改訂 4 版』南山堂

成績評価方法：出席状況と筆記試験および提出物(レポート、スケッチ)により総合判定する。

その他(メッセージ等)：生物学は看護学を学ぶ上でもっとも重要な基礎となります。皆さんの積極的な参加を期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	生物学概論(松岡)	生命とは何か、多様性と共通性
第2回	細胞・組織・器官(松岡)	細胞小器官
第3回	細胞分裂1(西山)	体細胞分裂
第4回	細胞分裂2(西山)	減数分裂、精子形成、卵形成
第5回	顕微鏡実習(松岡)	顕微鏡の構造、原理、操作法
第6回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の精巣の構造と機能
第7回	顕微鏡実習(松岡)	哺乳類の卵巣の構造と機能

第 8 回	細胞の構造と機能 (西山)	細胞膜、浸透圧
第 9 回	受精と発生 (西山)	初期発生、器官形成
第 10 回	恒常性 1 (西山)	ホルモン
第 11 回	恒常性 2 (西山)	自律神経
第 12 回	免疫 1 (西山)	抗体、体液性免疫
第 13 回	免疫 2 (西山)	細胞性免疫
第 14 回	生体を構成する物質 1 (五十嵐)	水、脂質、核酸、炭水化物
第 15 回	生体を構成する物質 2 (五十嵐)	タンパク質
第 16 回	生体エネルギーの生産 (五十嵐)	ATP、糖代謝、呼吸、発酵
第 17 回	生体エネルギーの利用 (五十嵐)	筋収縮、光合成
第 18 回	遺伝子の本体 (五十嵐)	DNA、RNA、二重らせん
第 19 回	遺伝子の複製 (五十嵐)	複製
第 20 回	遺伝子の発現 (五十嵐)	転写、翻訳
第 21 回	酵素反応 (五十嵐)	基質特異性、ミカエリス・メンテン式
第 22 回	酸素運搬タンパク質 (松岡)	ヘモグロビン、酸素解離曲線
第 23 回	生物の多様性と進化 (松岡)	生物の分類、進化論の歴史、分子進化

物理学 14 時間

化学 8 時間

区分名： 論理的思考を培う

科目名（英語名称含む）： 数学（Mathematics）

教員名： 岡田達也

開講年次： 1年次，学期 2019年度 前期， 必修/選択： 選択

授業形態： 講義， 単位数： 2単位， 時間数： 30時間

概要：本講義の目的は2つある。1つは必修科目である「統計学」、「医療統計学」への橋渡しである。統計学は看護学にとどまらずあらゆる科学分野の基盤として重要であり、高等学校の課程でも数学Ⅰにおいて「データの分析」、数学Ⅱにおいて「確率分布と統計的な推測」を学ぶことになっている。しかし、「統計的な推測」に関しては入試に課す大学が少ない等の理由で十分な学習がなされていないのが実情と思われる。ここでは、本来高等学校で修習すべき統計学の基礎を学びなおす。もう一つは数理的、論理的な思考に親しむことである。数学はその概念や論理を明確かつ簡潔に表すため、式や記号が多用される。このため、ややもすると暗記科目として取り組みがちになり、実際そういう学習法で失敗する学生が多い。数式や記号は実際に起こっていることを記述しているだけであり、それらを道具として状況・条件を整理し、組み立てて、筋道を立てて考えるという「論理的思考」こそが重要である。本講義では数学のさまざまなテーマを題材として、なぜ？どうして？と自問しながら、論理的かつ批判的に思考する能力を養う。

学習目標：

- (1) 高等学校で学習した数学の知識を発展させ、看護の分野で活用できる能力を身につける。
- (2) 大学で学ぶ統計学を理解するのに必要な基礎学力と応用力を習得する。
- (3) 数学的思考・考察を積極的に活用する態度を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		単位認定に関係ない。
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	基盤となる知識を示せることが単位認定に要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

テキスト：必要に応じてプリントを配布する。

参考書： 石村園子 著「すぐわかる確率・統計」東京図書
石村貞夫 著「看護系学生のためのやさしい統計学」共立出版

成績評価方法：授業の評価は、試験の得点、平常点・レポート評価点で判定される。

その他（メッセージ等）： 本学部の教育目標のひとつに「さまざまな事象や現象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる」とある。本講義を通してこの目標に一歩でも近づいて頂きたい。しかし、そのためには単に講義を聴講するという受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に参加して、数学する（思考する）という態度で講義に臨んで頂きた

い。

授業内容(学習項目)

回数	実施日	時限	項目	内容(キーワード等)
第1～3回	4月9日 (火)	1,2,3	数の広がり	0の発明、有理数と無理数、黄金比とフィボナッチ数列
第4～6回	4月16日 (火)		集合と論理	ド・モルガンの法則、命題、命題関数、推論、
第7～9回	4月23日 (火)		場合の数、有限と無限	順列・組合せ、濃度、可算集合、非可算集合
第10～12回	5月7日 (火)		確率の概念	標本空間、数学的確率、経験的確率、公理的確率の定義
第13～15回	5月14日 (水)		確率の計算	条件付き確率、加法定理、乗法定理、事象の独立、ベイズの定理
第16～18回	5月21日 (水)		確率分布1	確率変数、確率密度関数、分布関数、期待値、分散、チェビシェフの不等式
第19～21回	5月28日 (水)		確率分布2	2項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布
第22～24回	6月4日 (水)		母集団と標本、標本分布1	正規母集団、2項母集団、母集団分布、標本分布
第25～27回	6月11日 (水)		標本分布2、推定1(点推定)	χ^2 二乗分布、t分布、F分布、不偏推定量、一致推定量
第28～30回	6月18日 (水)		推定2(区間推定)	点推定の考え方、母平均の推定

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：文学（literature）

教員名：澤 正宏

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ， 選択：

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：日本の近代から現代にかけての文学の流れや、代表的な文学作品（主に小説、詩歌）を学ぶことによって、歴史的・文化的な背景を理解し、そのことで、人生における愛、死、運命、宗教的な救い、政治や社会との関わりなど、人間にとって生きることの意味についての思索を深め、幅広い視野に立って人間を理解し得る能力、感性を養います。また、講義のなかでは、何回かは文学と医学との接点の問題も扱います。

学習目標：明治時代以降の文学作品を具体的に理解することで、近代以降の歴史や文化といった時代背景への知識を深めながら、作品の成立事情、構想、芸術性、文化的な価値などの理解をとおして、文学における深い人間洞察が体得できるようにする。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会が無い

		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が無い
		②	看護の実践		

		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会が無い
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない（講義者が作成した資料を使用する）。

参考書：講義の都度、提示する。

成績評価方法：講義での出席、感想発表、参加態度（意見など）と、前期試験により評価。

その他（メッセージ等）：講義への積極的な参加（意見、感想など）を期待する。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	学ぶことの意味 文化の集積
第2回	森鷗外「高瀬舟」	足るを知る 安楽死 オオソリティー
第3回	芥川龍之介「歯車」	芸術至上主義 地獄 関係妄想
第4回	宮澤賢治の童話（1）	「オツベルト象」 労働と救済 怒ることの意味
第5回	宮澤賢治の童話（2）	「なめとこ山の熊」 食物連鎖 生きることと殺生
第6回	萩原朔太郎の詩	近代詩を極めた表現 腐敗感覚と万人の孤独
第7回	金子みすゞの児童詩	「みんなちがってみんないい」とは 仏教的な表現
第8回	近代文学から現代文学	主知主義の文学 労働者の文学 現代都市の出現
第9回	ハンセン病の文学	隔離政策 ワゼクトミー 病気と差別
第10回	中原中也の詩（1）	日本一の「空」の詩人 「空」の表現の本質
第11回	中原中也の詩（2）	詩「ひとつのメルヘン」 極められたダダイズム
第12回	原爆被災の文学	原民喜「鎮魂歌」 原爆を被災した死者への共感
第13回	中城ふみ子の短歌	乳癌で亡くなった女性歌人の歌の特色
第14回	戦後文学（主題など）	戦後社会の二重構造 高度資本主義経済
第15回	『苦海浄土』を読む	日本公害病の原点 日本で最高の小説と評価

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：音楽

教員名：高橋 裕之

開講年次：1年次，学 期：2019年度 集中 ，必修／選択：選択

授業形態：講義実習 ，単位数：1単位 ，時間数：15時間

概要：

日本において一般的に音楽とされるものは、西洋音楽のシステム（音階や拍節法など）を基盤に成り立っています。小・中学校、高等学校で経験してきた音楽の源流とは何でしょうか。それは西洋（ヨーロッパ）の音楽なのです。皆さんが学んできた学校の音楽室には当たり前のようにピアノがおいてあったでしょう。それがその証拠です。本講義ではこうした西洋音楽を中心に音楽的見識を広めるとともに、実際にいくつかの楽器を演奏して音楽に親しんでいただきます。まず、名作と呼ばれる音楽作品の鑑賞を通じて、西洋音楽に対する理解の裾野を広げていきましょう。次に、歌唱、リコーダー（アンサンブル）、ボディパーカッションなどの実演を通じて自身で音楽を表現することの喜びを味わいます。ゲストには、日本伝統音楽の演奏家を招く予定です。（スケジュールの都合で実施できない場合もあります）

学習目標：

一般目標

「鑑賞」と「実演」これら二つの柱を通じて、感性を磨きましょう。また、音楽をする際に最も重要な『聴く』という行為について考えていきましょう。積極的に音楽を『聴く』。この行為は、コミュニケーションスキルとして不可欠な力を養うことにもつながります。

学習目標：1）音楽的知識や見識を広めることで教養を高めることができる。

2）表現する楽しみを得ることができる。

3）能動的に音楽を『聴く』ことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		③	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		④	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		⑤	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		

		③	論理的思考能力を高める科目		る
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑥	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑦	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑧	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑨	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト : 特定のテキストは使用しない。講義中に配布するプリントや楽譜にて。

参考書 : 特定の参考書は使用しない。参考文献については講義中に指示。

成績評価方法 : 出席、レポート (鑑賞の感想含む)、講義内容の理解と実演への
関わり方など総合的に評価する。

その他 : ①ソプラノ・アルトリコーダーどちらか一方を所持していることが望ましい。

無い方は、初回講義で相談してください。

②使用教室やゲストの都合により講義内容が前後することがある。

教員から学生へメッセージ : 音楽を楽しみ、共に感性を磨きましょう。音楽が好きという
気持ちがあれば実技が苦手な人でも歓迎します。(使用教室の都合などにより内容が前後
する場合があります。その場合、予め連絡します。)

授業内容(学習項目)

夏期 集中講義で3日間

項目	内容 (キーワード等)
第1回	ガイダンス 音楽=西洋音楽?
第2回	講義の進め方 評価 日本における音楽とは?
第3回	西洋音楽とは?~名曲とともに歴史を辿る~
第4回	クラシック音楽の魅力や黒歴史?を知る クラシック音楽がポピュラー音楽にもたらしたもの
第4回	リコーダー アンサンブル
第5回	様々な楽曲を演奏してみる 表現とは 言葉とメロ ディ 歌詞
第5回	ハンドベル(1)
第6回	ハンドベルを楽しもう 和音
第6回	オペラ~オペラを楽しむ~【鑑賞】
第7回	オペラの歴史と魅力について オペラ制作を通じて組織について考える
第8回	ボディーパーカッション(1)
第8回	ボディーパーカッションを楽しもう
第8回	ハンドベル(2)
第8回	ハンドベルを楽しみ 発表をしてみよう
第9回	オペラ(2)~オペレッタを楽しむ~【鑑賞】
第10回	オペレッタの魅力について
第11回	日本音楽<<特別講師>>【鑑賞】
第12回	ゲスト 箏奏者による生演奏 都合がつかない場合は、ボディーパーカッション
第13回	アンサンブル リコーダー、ハンドベル、(ボディーパーカッ ション)を駆使して一つの作品を作り上げよう。
第14回	フラッシュモブの実験をしてみよう ミニコンサート
第15回	本当に音楽には国境がないのか? 西洋音楽という視点から異文化理解について考える

区分名：感性を高める

科目名（英語名称含む）：体育Ⅱ（Physical EducationⅡ）

教員名：杉浦弘一

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期，必修／選択：選択

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：

運動（スポーツ）やトレーニングは適切に行えば身体に良い影響をもたらすが、不適切な方法で行えば悪影響を及ぼすこともある。本講義では、運動（スポーツ）を行っている時に身体でどのようなことが起きているのか、運動（スポーツ）をどのように実践していけばいいのかなど、運動が身体に及ぼす効果（影響）や運動の方法について概説する。

学習目標：

<一般目標>

人間が運動やスポーツを実践することができる仕組みについて理解するとともに、運動やスポーツが身体に与える効果（影響）について理解できる。

<行動目標>

運動（スポーツ）や身体活動がもたらすメリット・デメリットを理解し、運動を実践する基礎を作る。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。 (学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：なし（必要な資料は事業時に配布する）

参考書：「運動生理学」「スポーツ医学」関係の書籍など

成績評価方法：筆記試験、出席状況、授業への取組みなどにより総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：授業への積極的な参加を必須とします。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	運動が身体に及ぼす影響①	運動が身体に及ぼす効果および影響について概説
第2回	運動が身体に及ぼす影響②	運動が身体に及ぼす効果および影響について概説
第3回	運動が身体に及ぼす影響③	運動が身体に及ぼす効果および影響について概説
第4回	運動時の身体の働き①	身体を動かすメカニズムについて概説
第5回	運動時の身体の働き②	身体を動かすメカニズムについて概説
第6回	運動プログラムの基本的原理・原則①	運動プログラムを作成する(運動を実施する)時の基本原則について概説
第7回	運動プログラムの基本的原理・原則②	運動プログラムを作成する(運動を実施する)時の基本原則について概説
第8回	暑熱環境下での運動と水分補給①	暑熱環境下での運動時に考えるべき点と、水分補給について概説
第9回	暑熱環境下での運動と水分補給②	暑熱環境下での運動時に考えるべき点と、水分補給について概説
第10回	運動と疲労・疲労回復①	運動による疲労のメカニズムと疲労回復の方法について概説
第11回	運動と疲労・疲労回復②	運動による疲労のメカニズムと疲労回復の方法について概説
第12回	運動と生体防御機構	運動が生体防御機構に及ぼす影響について概説
第13回	体格と運動処方①	体脂肪量・除脂肪体重を基にした体格の分類方法とそれに応じた運動の考え方について概説
第14回	体格と運動処方②	体脂肪量・除脂肪体重を基にした体格の分類方法とそれに応じた運動の考え方について概説
第15回	試験	

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：行政と医療・福祉・保健

(Administration, health care, welfare and health)

教員名：柴田邦昭

開講年次：1年次，学期：2019年度 前期，必修/選択：必修

授業形態：講義，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：行政が行う、基本的な社会福祉の制度を分野ごとに学ぶ。また、核分野での医療保険関連事業を学ぶ。

- 学習目標：1) 社会福祉の大枠を理解する。
2) 社会福祉の行政機能を理解する。
3) 行政政策・制度を地域として習得する。
4) 医療保険と福祉制度との総合化を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者とし		

			ての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康と社会保障制度 3
「社会保障・社会福祉」2019年度版

参考書： 適時支持する

成績評価方法： 試験により評価を行う。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	社会保障制度1	社会保険 公的扶助
第2回	社会保障制度2	公的扶助
第3回	社会保障制度3	社会福祉の概略
第4回	社会福祉の法制度1	社会福祉法
第5回	社会福祉の法制度2	福祉6法
第6回	社会福祉の法制度	社会福祉の財政・組織と実施体制・従事者と担い手
第7回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向1	現代社会の変化
第8回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向2	社会保障・社会福祉の動向
第9回	医療保障1	医療保障制度の沿革
第10回	医療保障2	医療保障制度の構造と体系
第11回	医療保障3	健康保険
第12回	医療保障4	国民健康保険
第13回	医療保障5	高齢者医療制度
第14回	医療保障6	保険診療のしくみ
第15回	医療保障7	公費負担医療・国民医療費

区分名：社会の理解を深める

科目名（英語名称含む）：社会と法(日本国憲法を含む) (Japanese Constitutional Law)

教員名：藤野美都子

開講年次：1年次 学期：2019年度 前期 選択

授業形態：講義 ， 単位数：2単位 ， 時間数：30時間

概要：

※この科目は、養護教諭 2 種免許取得を希望している学生は必ず選択してください。
憲法は、権力担当者が権力を濫用し、人々の基本的人権を侵害することがないように権力を規制するものである。本講義は、日本国憲法を対象とし、憲法が保障する基本的人権および人権を保障するための枠組みについて学ぶ場を提供する。さらに、具体的な事例を通して、憲法が守られ人権が保障されているか否かについて、受講生自らが考えられる機会を設けたい。

学習目標：

一般目標

- (1) 法的な物の見方（リーガル・マインド）および法を知り使いこなす力（リーガル・リテラシー）を身につける。
- (2) 憲法学を通して社会に対する理解を深め、能動的市民としての力を身につける。

行動目標

- (1) 憲法とは何かについて理解する。
- (2) 日本国憲法の人権保障システムについて説明できる。
- (3) 実社会において、基本的人権が保障されているか否か判断できる。
- (4) 基本的人権が侵害されている場合の権利救済方法について説明できる。
- (5) 日本の統治機構について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 基盤となる態度、スキルを

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		示せることが 単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない。

	コミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

植野妙実子『基本に学ぶ憲法』（日本評論社・2018年）

参考書：

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第16版）』岩波書店・2015年

渋谷秀樹『憲法（第3版）』有斐閣・2017年

高橋和之ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）』有斐閣・2013年

成績評価方法：

授業への参画態度および提出課題の成績により、総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：

資料や映像を使い、一定の知識を共有した後、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、憲法を学ぶ上で、社会に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて日々情報を収集し、社会に関する理解を深めていただくことを期待します。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	講義案内 憲法とは何か①	講義案内 ハンセン病隔離政策から考える憲法①
第2回	憲法とは何か②	ハンセン病隔離政策から考える憲法②
第3回	憲法の誕生①	日本国憲法の制定過程①
第4回	憲法の誕生②	日本国憲法の制定過程②
第5回	国民主権と象徴天皇制①	天皇の退位
第6回	国民主権と象徴天皇制②	女性天皇
第7回	平和主義	9条と安全保障関連法
第8回	平和主義	平和構築に対する国際貢献
第9回	人権の享有主体	外国人の基本的な人権の保障
第10回	自己決定権①	生殖補助医療の規制
第11回	自己決定権②	安楽死と尊厳死
第12回	法の下での平等①	女性差別撤廃条約と日本の男女平等
第13回	法の下での平等②	夫婦同氏の原則
第14回	法の下での平等③	婚外子の相続差別
第15回	表現の自由	ヘイトスピーチの規制
第16回	信教の自由と政教分離	内閣総理大臣の靖国神社参拝
第17回	人身の自由①	被疑者・被告人の権利
第18回	人身の自由②	死刑制度
第19回	生存権	日本の貧困問題と社会保障制度
第20回	教育を受ける権利	教育の無償化
第21回	労働権	労働時間規制と過労死
第22回	選挙権と選挙制度	衆議院・参議院の選挙制度
第23回	選挙権の平等	投票価値の不平等
第24回	内閣	国家緊急権
第25回	裁判所	司法制度改革と裁判員制度
第26回	裁判を受ける権利①	映画「フィラデルフィア」を通して考える裁判の意義
第27回	裁判を受ける権利①	映画「フィラデルフィア」を通して考える裁判の意義
第28回	財政	財政赤字と世代間の公平
第29回	地方自治	沖縄普天間基地の移設
第30回	憲法改正	憲法改正手続法

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する科目

科目名（英語名称含む）：人体解剖生理学Ⅰ（Human anatomy and physiologyⅠ）

教員名： 本多たかし

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：3単位 ， 時間数：45時間

概要：正常な人体の構造と機能を理解する。

学習目標：

- ① 人体の成り立ちを説明できる。
- ② 細胞の解剖生理学的意義を説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づい	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない

	た看護の実践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民との		

			リスクコミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	— 修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

テキスト：特に指定しない。講義資料を Web 資料として配布する。

参考書：講義中に提示する。

成績評価方法：試験期間中に実施する筆記試験、随時実施するレポートを等分に評価する。

その他（メッセージ等）：理由の如何によらず、欠席は認めない。欠席した場合には当日の講義の主題に関するレポートを提出し、判定を受けること。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生命の定義とその形	遺伝子、細胞、核、細胞内小器官、細胞膜
第2回	水、細胞膜	水素結合、イオン、チャネル、静止膜電位
第3回	細胞、組織、器官	細胞の構造、細胞間質
第4回	人体の基本構成と名称	正中線、矢状面、頭頸部、体幹、四肢
第5回	骨組織	骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞、骨単位、骨形成
第6回	骨格系	頭蓋骨、体幹骨、四肢骨、関節、靭帯
第7回	筋組織	筋細胞、収縮タンパク質、神経-筋連関
第8回	骨格筋系	頭頸部の筋、体幹の筋、四肢の筋
第9回	体液	細胞内液、細胞外液、体腔液、リンパ液
第10回	血液	血球、血漿、血液凝固、血液型
第11回	循環器の構造	心臓、大循環系、微小循環系
第12回	循環器の機能	心機能曲線、左室圧容量曲線、心電図
第13回	呼吸器系	鼻、喉頭、気管、気管支、肺、気道、呼吸部
第14回	消化管の構造と機能	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肛門
第15回	消化腺の構造と機能	唾液腺、肝臓、膵臓、胆嚢

区分名：人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）：生化学（Biochemistry）

教員名：森 努

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ，必修／選択：必修

授業形態：講義演習実習 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：システムとしての人体を構成する物質の構造と相互作用を理解し、看護の現場において病態生理を把握する際に必要となる生化学の基礎知識を習得する。

学習目標：1) 遺伝子の機能・構造と、その異常に伴う疾患の成り立ちを説明できる。

2) 生体物質の構造・機能と代謝調節、およびその異常に伴う疾患の病態生理を説明できる。

3) ホルモンの種類と機能を学習し、内分泌疾患の成立機序を説明できる。

4) 悪性腫瘍の発症機序と治療手段について理解できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	-	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		

		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：系統看護学講座（医学書院） 人体の構造と機能 [2] 生化学

参考書：開講時に提示する。

成績評価方法：定期試験結果・レポートを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：生化学は現代医学の中心領域です。生化学の視点を持つことは、現場で日常的に見かける生活習慣病や悪性腫瘍を理解するために必要です。要点を押さえた効率的な勉強を心がけて下さい。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	生化学総論	遺伝子・細胞・細胞内小器官・生体物質
第2回	糖質	糖質の種類・単糖・二糖・多糖
第3回	脂質	脂質の種類・脂質各論・リポタンパク
第4回	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の構造・機能
第5回	核酸	ヌクレオチド・DNA・RNA
第6回	水と無機質	水の出納・無機質の分類
第7回	血液と尿	ホルモンとは・ホルモンの種類と作用・内分泌疾患
第8回	糖質	糖質の消化吸収、解糖系・糖新生・グリコーゲン代謝
第9回	脂質	脂質の消化吸収、中性脂肪・コレステロール
第10回	アミノ酸とタンパク質	タンパクとアミノ酸の消化吸収、アミノ酸利用経路
第11回	核酸	核酸とヘムの代謝と異常
第12回	水と無機質	糖尿病・高脂血症・痛風
第13回	血液と尿	複製・転写・翻訳・DNA損傷と修復・先天代謝異常
第14回	生化学総論	癌の分子生物学・細胞周期
第15回	糖質	ホルモンとは・ホルモンの種類と作用・内分泌疾患

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：看護学の基本 I（Nursing Fundamentals 1）

教員名：川島理恵

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期 ，必修

授業形態：講義 ，単位数：2単位 ，時間数：30時間

概要：

看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」について学習し、看護に対する自己の考えを形成するための基盤とする。看護の対象の特徴を学び、対象の生活の多様性、健康で自立した生活を送ることの大切さを理解すると共に、看護職者の役割について考える。

また、看護職者が看護理論を学ぶ意義、看護技術の位置づけ、看護実践に必要な思考過程について学習する。専門職としての看護職者の歩みを学習し、これからの看護職者の目標を確認する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- ①看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」について学習し、初学者としての自己の考えを述べる。
- ②看護の対象の特徴を学び、対象の生活の多様性、健康で自立した生活を送ることの大切さを理解する。
- ③看護の対象の特徴を学び、看護職者の役割について意見交換する。
- ④看護理論に触れることにより、看護職者が看護理論を学ぶ意義を理解する。
- ⑤看護技術が対象にもたらす効果に触れ、看護技術の位置づけを理解する。
- ⑥看護実践における問題解決過程の位置づけについて理解する。
- ⑦我が国の看護教育制度の変遷を学習し、看護専門職としての自律について考える。
- ⑧現在の看護の現状への理解を通して、これからの看護職者の目標について考える。
- ⑨看護を志向する学生にとっての倫理について考える。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件で
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		ある
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。		
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	-	修得の機会はない
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：ありません。

参考書：授業で紹介します。

成績評価方法：筆記試験、レポート、出席状況、授業への取り組みを総合して行います。

その他（メッセージ等）：

この授業では、看護学の基本的な内容を学びます。他の授業も同じですが、授業での学びが、皆さん一人ひとりに役立つ内容となることを願っています。そのためには、授業での疑問点や分かりにくい点などは、意見として述べてください。一緒に授業をつくって行きたいと思います。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1・2回	はじめに	看護や看護職に対するイメージ
第3・4回	看護学の基本概念	看護の基盤となる4つの概念
第5・6回	看護の対象①	健康とは 病気とは 生活とは
第7・8回	看護の対象②	看護を提供する場の多様性
第9・10回	看護職者の役割	支援者 代弁者 教育者 看護の法的 位置づけ
第11・12回	看護と看護理論	看護職者が理論を学ぶ意義 看護実践を 支える理論
第13・14回	ナイチンゲールと看護①	人を見る 消耗を抑える 観察する
第15・16回	ナイチンゲールと看護②	環境を整える
第17・18回	ヘンダーソンと看護	日常生活行動 自立を支援する
第19・20回	看護の方法①	看護技術 安全・安楽・自立
第21・22回	看護の方法②	問題解決過程 身近な問題を解決する
第23・24回	看護学生としての倫理	倫理とは 自己を敬う 他者を敬う
第25・26回	我が国の看護教育制度	教育制度の変遷 看護学教育の大学化
第27・28回	看護職者の自律	専門職とは 自律とは
第29・30回	まとめ	

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：コミュニケーションに関する技術（Communication skills）

教員名：丸山育子

開講年次：1年次，学 期：2019年度 前期後期 ， 必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：看護場面におけるコミュニケーションは、単なる情報のやりとりだけでなく、情報に伴う意味や感情も重要となります。その重要性を理解し、援助的人間関係が形成できるようなコミュニケーションスキルを学びます。このとき、重要な位置を占めるのが、自分自身のコミュニケーションの特徴を知ることです。その上で、各々が看護場面で援助的人間関係を築けるようにそれぞれが考えます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

【一般目標】看護場面におけるコミュニケーションの特徴を理解し、援助的人間関係に築くためのコミュニケーションスキルについて学ぶ。各自のコミュニケーションの特徴を踏まえ、今後援助的人間関係を築くために各自が身に付けるスキルは何かを考察する。

【行動目標】

1. 看護場面におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
2. 援助的人間関係を築くためのコミュニケーションスキルを理解する。
3. 各自のコミュニケーションの特徴を自分自身で分析して知る。
4. 今後、看護場面において援助的人間関係を築くために自分自身に身に付けるコミュニケーションスキルについて考察する。
5. 模擬の看護場面でコミュニケーションスキルを使い実践する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	— 修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度・スキルを示せる

	コミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		ことが単位認定の条件である。
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の条件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係が無い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	④のみ ○	基盤となる態度・スキルを示せることが単位認定の条件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しません。資料を配布します。

参考書：適宜授業で紹介します。

成績評価方法：筆記試験、レポート、授業への参加態度により、総合的に評価します。

その他（メッセージ等）：自分をみつめる時間となります。いいことも辛いと感じることもあるかもしれません。それらすべてが、これから向き合う看護場面で役立ちます。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	コースガイダンス	科目の概要と進め方、グループ分け
第2回	看護場面におけるコミュニケーション	グループワーク： コミュニケーションとは何か？

		看護場面におけるコミュニケーションの特徴は何か？
第3回	看護の模擬場面の体験	看護場面における特徴を疑似体験から理解
第4回	看護の模擬場面から考える	グループワーク：看護場面の模擬場面の体験から、必要な事柄を考える
第5回	看護の模擬場面から考える	グループワーク発表
第6回	看護の模擬場面から考える	グループワークから出された事柄の解説 － 援助的人間関係に必要なスキル
第7回	看護の模擬場面から考える	グループワークから出された事柄の解説 － 援助的人間関係に必要なスキル
第8回	自分自身のコミュニケーションの特徴を知る	プロセスレコード
第9回	自分自身のコミュニケーションの特徴を知る	プロセスレコードの分析
第10回	自分自身のコミュニケーションの特徴を知る	プロセスレコードの分析から自分自身に必要なコミュニケーションスキルを導く
第11回	事例に用いて援助的人間関係を考える	事例紹介と事例検討
第12回	事例に用いて援助的人間関係を考える	グループワーク： 事例検討 コミュニケーションスキルを用いて
第13回	事例に用いて援助的人間関係を考える	グループ発表
第14回	看護場面におけるコミュニケーションの実際	実際の看護臨床場面でのコミュニケーションの話 を看護師から聞く
第15回	自分自身のコミュニケーションについて	自分自身のコミュニケーションにおいて、身に付けるスキルを考える

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）： 看護技術とアセスメント I（Nursing skills and assessment as the foundation nursing practice I）

教員名：川島理恵 丸山育子 田中啓子 一條由夏 林紋美

開講年次：1年次，学 期：2019年度 通年 ，必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ，単位数：3単位（講義1単位・演習2単位） ，時間数：45時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 看護における看護技術の重要性について説明することができる。
2. 人間の休息と睡眠の意義について説明することができる。
3. 基本的な環境調整の基本技術を実践することができる。
6. 看護における感染予防の重要性について説明することができる。
7. 医療の場における手洗いの技術を実践することができる。
8. 看護者が動作の基本を習得する必要性を説明することができる。
9. 関節の可動域や筋力の状態を把握するための基本技術を実践することができる。
10. 移乗・移動動作の基本技術を実践することができる。
11. 栄養や排泄が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
12. 経口からの食事摂取に向けた看護の基本技術を実践することができる。
13. トイレでの排泄に向けた看護の基本技術を実践することができる。
14. 身体の清潔保持が人間の健康な生活に与える影響について説明することができる。
15. 皮膚・粘膜・頭髮・衣類の清潔を保つための基本技術を実践することができる。
16. 演習を通して対象の状況に近づき、看護者としてのあり方を考えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		用できることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：テキストの指定はありません。

参考書：配布資料に記載します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取り組みを総合して評価します。

その他（メッセージ等）：

対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力が
必要です。技術を習得するには、繰り返し練習することが必要です。学生同士で互いに刺
激しながら、また、教員も活用しながら共に学んで行きましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1～3回	ガイダンス 感染予防	看護技術とは 日常的手洗い
第4～6回	関節の動きと筋力	関節可動域の観察、筋力の観察
第7～9回	移乗・移動動作の基本①	ボディメカニクス、ベッド上での体位変換
第10～12回	移乗・移動動作の基本②	車椅子やストレッチャーによる移送
第13～15回	休息と睡眠①	環境調整、ベッドメイキング
第16～18回	休息と睡眠②	寝具の交換
第19～21回	栄養	経口による食事摂取に向けた援助、食の楽しみ
第22～24回	口腔内の清潔	口腔内の清潔、含漱、誤嚥
第25～27回	排泄	排泄の自立に向けた援助、床上排泄の援助
第28～30回	陰部・殿部の清潔	陰部の清潔、尿路感染
第31～33回	衣生活と健康	対象に応じた衣類の選択、衣類の交換
第34～36回	皮膚の清潔①	皮膚の構造と機能、洗浄剤の効果、拭き取りに よる清潔保持の特徴、部分清拭
第37～39回	皮膚の清潔②	洗浄による清潔保持の特徴、頭皮や頭髮の清潔
第40～42回	皮膚の清潔③	浴することによる清潔保持の特徴、入浴、足 浴、手浴
第43～45回	皮膚の清潔④	援助を提供する看護者の責任や望まれる態度、 全身の清拭